

移動に関するプロジェクトチーム

目的

札幌市の各所でなされてきた移動に関わる議論を集約し、課題を整理した上で、足りない情報をアンケート調査により質的に補う。以上を通して、関係各所との連携のあり方を提言する。

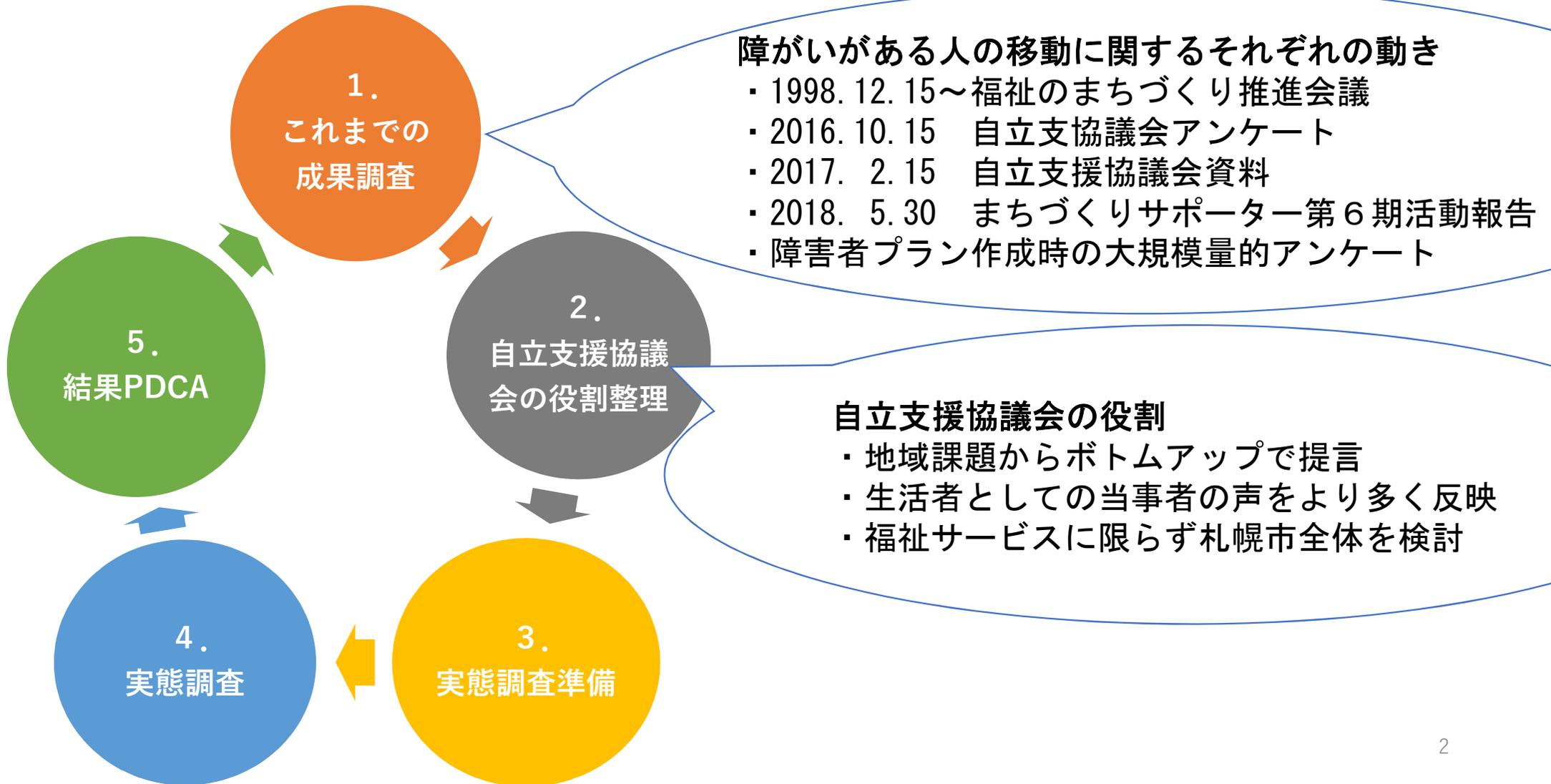
【2019年5月～2020年9月の有期】

またアンケート？

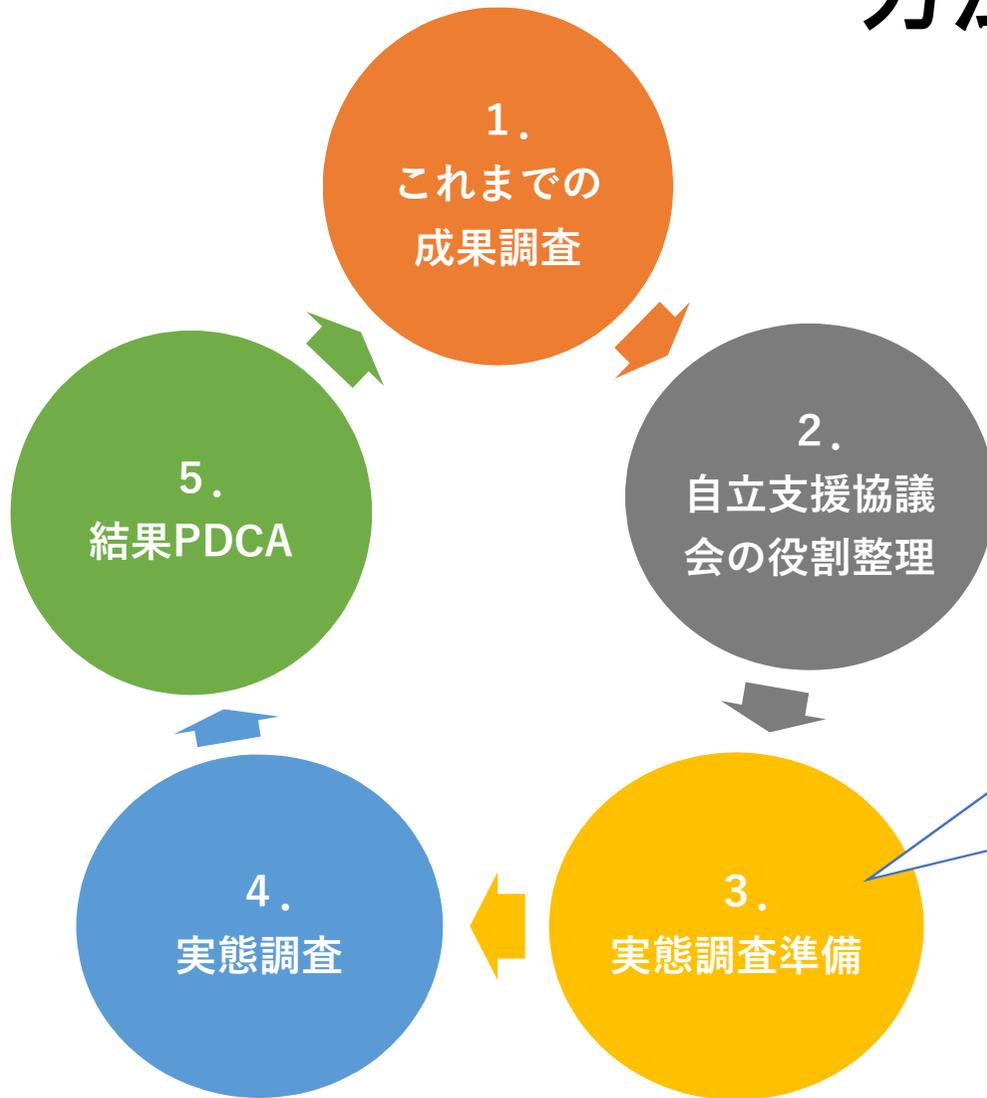
あちこちで同じ
ことしてる？

何も変わらない？

方法



方法



アンケートの目的を整理

- ・「あきらめてしまう」気持ちも取り扱う
- ・普段行くところ／初めて行くところ
- ・季節や天気の違い
- ・障がい種別の困りと工夫を取り扱う
- ・考察は様々な方向からの検討
- ・関係各所との連携の仕方を提言

結果

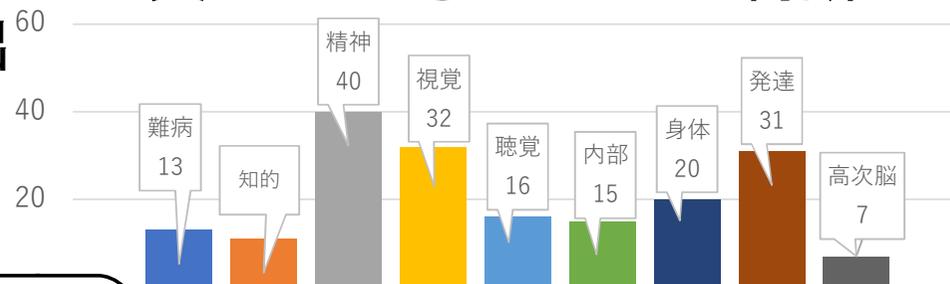
○障がい種別の調査対象（回答）数

視覚障がい	聴覚障がい	身体障がい（肢 体・車いす）	内部障がい	精神障がい	発達障がい
20	19	10	13	18	13

知的障がい	高次脳機能 障がい	難病
12	13	10

本人が工夫していること

- 回答結果の自由記述の中から“本人が工夫していること”と判断された内容の回答＝計185を抽出



42人回答

移動中

- 送迎がない場合、徒歩又は中止
- 雨や雪などの天候によっては中止
- 人込みが多い時間帯は避ける
- 他者からの視線、言動を我慢 など

47人回答

利用中

- ヘルプマークをつける
- 職員に手引き、スロープ依頼
- イヤホンで遮音している
- 必要時に頓服薬を服用する
- 表示が見えない時は人に聞く など

34人回答

事前準備

- 医療道具、同行者の確保、交通費の確保
- バス乗車時の予約、手配、送迎の確保
- 時刻表、乗車口、出口、
- 体調、身障者トイレの有無の確認 など

障害者プランの項目ごとに自由記述を整理

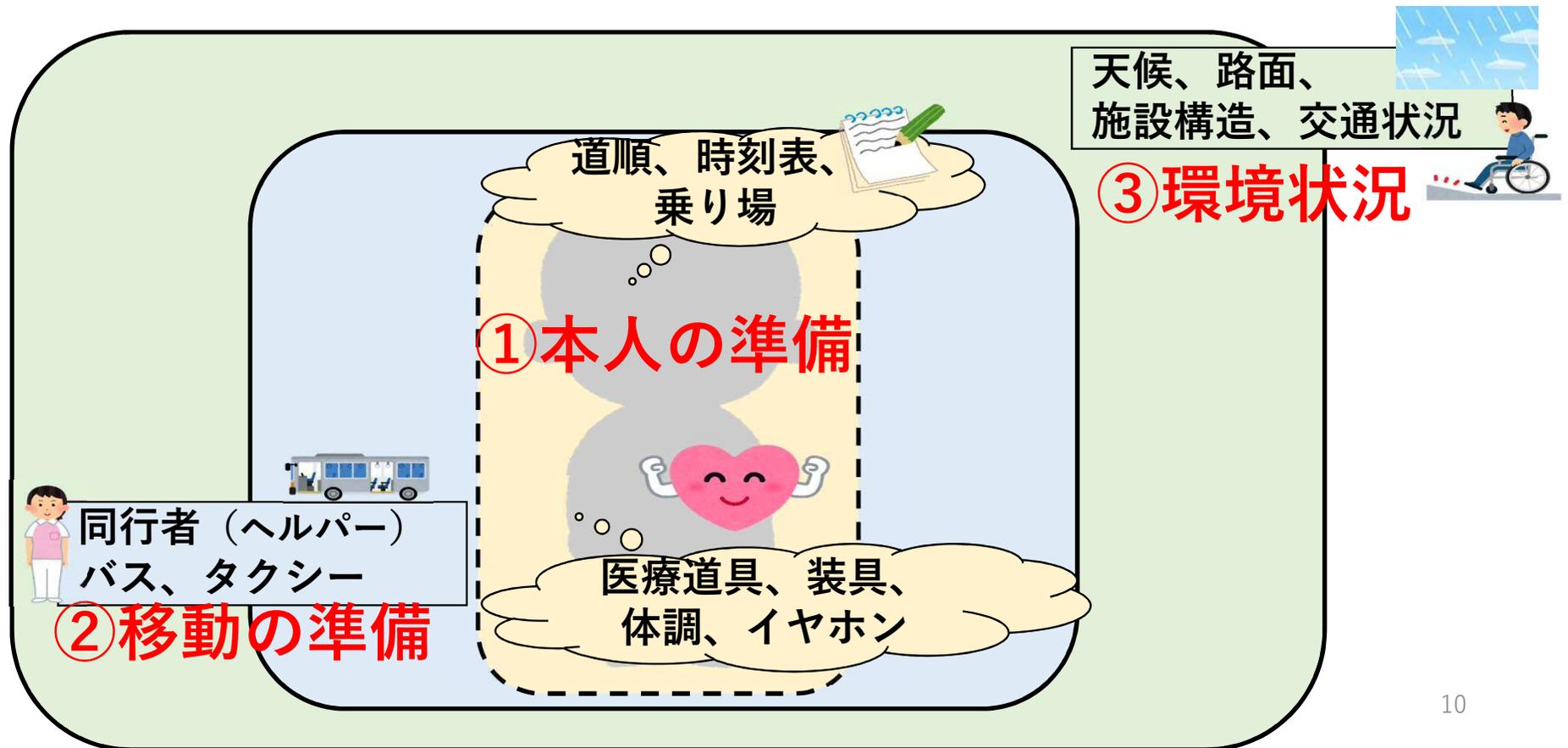
	項目	自由記述（◎助かっていること、▲困っていること）
横断的分野	理解促進	<p>◎ヘルプマークのおかげでとても助かっています。</p> <p>▲見た目だけではわからない障がいがあることを啓発してほしいです。</p> <p>▲地域のちょっとした手伝いで暮らしやすくなることが多いことを啓発してほしいです。</p> <p>▲公共交通機関の職員が非協力的であったり、ネガティブなことを言うこともあります。</p> <p>▲優先席を譲ることや、公共交通機関内でのマナー違反に苦しむことが多いため、アナウンスをもっとしていただきたいです。</p> <p>▲地下鉄やバスでスロープの使い方に慣れてほしいし、使用を嫌がらないでほしいです。</p> <p>▲まだまだ、外に出る前からあきらめてしまっていることがたくさんあり（「暮らし」の部分で詳しく触れます）、このことも知ってほしいと思います。</p>
	生活環境整備	<p>◎車椅子用改札機などに助かっています。</p> <p>▲なくて、もしくは少なく困るものは以下です：点字ブロック（ICチップ）、バリアフリー、低い位置（車いす対応）の地下鉄券自販機・精算機・緊急停止ボタン・つかまるところ、安定的なバススロープ、路面電車の入口、優先席、トイレ、券売機「福祉大人」の反応が悪く押しづらい。</p> <p>▲照明、案内の声が大きすぎる場合があります。</p>

	項目	自由記述（◎助かっていること、▲困っていること）
横断的分野	情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実	◎駅番号や路線の色に助かっています。 ▲なくて、もしくは少なくて困るものは以下です：点字ブロック（ICチップ）、交差点（音）、歩車分離信号はじめ音の出ない信号機（音）、事故時のアナウンス（字幕）、電光掲示板、視野欠損もしくは注意の障害があってもわかりやすい掲示、特に、JR札幌駅⇄地下鉄さっぽろ駅、札幌バスターミナル⇄地下鉄南北線さっぽろ駅はわかりづらい、サピカの割引方法の説明
	差別解消	▲地下鉄で渡し板についてのお願いをスルーしないでほしいです。
施策分野	暮らし	▲当たり前前暮らしをあきらめていることがたくさんあります（あきらめていること参照：場所・一緒に行ってくれる人の有無・練習してくれる人の有無・家族の負担・経済面・天候に左右される、バリアフリー化されていない、情報アクセシビリティが充分でない）。 ▲「雇用就労」は経済的な面で、「暮らし」と連動しています。それぞれではなく一体的に議論してほしいです。
	保健医療	▲高次脳機能障害では地域生活の練習が重要ですが、現行制度では充分ではありません。 ▲移動支援を復職時一定期間使えるようにしてほしいです。

	項目	自由記述（◎助かっていること、▲困っていること）
施策分野	雇用就労	<p>◎福祉バスや割引に、本当に助かっています。</p> <p>▲移動は雇用就労へのアクセスの問題に関わると同時に、雇用就労による経済面の改善は移動の機会拡大につながります。</p> <p>▲通勤にヘルパーを使えるようにしてほしいです。</p> <p>▲移動支援を高次脳機能障害がある人の復職時一定期間使えるようにしてほしいです。</p> <p>▲「生活環境整備」で触れた公共交通機関の問題を解消してほしいです。</p> <p>▲ラッシュを避けて通勤することを許可してくれる会社増えてほしいです。</p> <p>▲雪、除雪有無による影響を考えてほしいです。</p> <p>▲精神障害も他の障害同様の割引を受けたいです。</p> <p>▲福祉乗車証と福祉タクシーを両方使えるようにしてほしいです。</p> <p>▲安心して利用できるタクシー以外の方法があるとよいと思います。</p>
	安心・安全の実現	<p>▲「生活環境整備」は「安心安全」と連動しています。</p> <p>▲特に事故時の車内放送の字幕は重要です。</p> <p>▲雪や暗闇で生じる不便のことも想定しておく必要があります</p>

考察

障がいがある人が【外出】するためには本人の工夫も含め、3段階の準備・状況が整っていないと難しい事がわかった。



提言①「本人があきらめていること」
「本人の努力していること」の啓発へ

- 1) 自立支援協議会各種研修会などで当事者の声として使っていただきたい
- 2) 自立支援協議会地域部会で回覧していただきたい
- 3) 他の障がい種について、当事者たちに知っていただきたい

提言② 障害者プランとの連動へ

- 1) 今回のアンケートを障害者プランに加味していただきたい
- 2) 1) 中の「横断的分野」について、福祉のまちづくり推進協議会でも検討していただきたい

提言③ 地域で共に考える仕組みづくりへ

- 1) 障害者プランへの自由記述に記載した内容について、地域毎に「お互い様」でできる工夫がないか、考える仕組みをつくっていただきたい。
- 2) 特に生活は、経済活動と移動が関係するように、全てが混然一体となっている。障害福祉の垣根を越えて検討する場が地域毎にあるとよいと考える。
- 3) まずは各地域部会へ打診させていただきたい。

提言④ 特定の機関へ

- 1) アンケートの自由記述から、タクシー、バス、地下鉄、市電、JR、飛行機への個別の感想や要望が寄せられている（～で助かっていますというものもあれば、～で困っていますというものもある。また、ハード面とソフト面の両面について記述がある）。以上の運営機関へ、個別に結果をご報告する機会をつくっていただきたい。
- 2) 障害者プラン「保健・医療」に記載されている事項について、制度で保障できないか、札幌市としてまずは検討する場をつくっていただきたい。

さいごに

- これまでは冒頭触れたように、札幌市内にある様々な会議体がそれぞれ別個に動き、また委員や担当職員の変更もあるため、議論が連動したり積み重なることが少なかった
- 今回を契機に、少なくとも、考察の提言①～④で触れたことがその後どのように進行しているか、毎年必ず確認する機会を設ける必要があると考える。
- 自立支援協議会の委員自体、当然改選がある。少なくとも会長と運営委員、事務局への申し送り事項として、本件が申し送られていくことを要望する。

アンケートにご協力くださった皆様、および
報告をご覧くださった皆様へ
心から感謝申し上げます。

札幌市自立支援協議会移動に関するプロジェクトチーム 2020年8月